

香川大学学術室情報図書グループ

岩澤尚子（受講者番号 7-1）

竹島雅美（受講者番号 7-2）

1. 発表資料の状況設定

平成 19 年 2 月の図書館システムリプレイスに伴い、システムは導入されたが、まだテストデータを入力し、動作確認を行っている状況である。平成 20 年 1 月のテスト公開を目標としているが、テスト公開前に、リポジトリ講習会開催し、リポジトリについてほとんど知らない教員に対してリポジトリとは何か説明して理解を求めるとともに、情報提供・登録への協力を依頼する。詳しい登録方法等については、別途マニュアル等を作成配布する予定である。

2. 発表内容抄録と研修当日の講師からの助言、及び研修発表との改訂部分

1) 抄録

機関リポジトリとは何か概要説明を行った後、そのメリットについて説明し、他大学の実施状況を紹介した。続いて、香川大学における機関リポジトリ（大学基礎情報データベースシステム（KBDS）との連携）の概要、収録コンテンツ、著作権について簡単に説明して、登録への理解と協力を依頼した。

2) 研修当日の講師からの助言

- ① 教員が作成する TeX ファイルについては、ソースファイルとスタイルファイルの両方をもらうようにするとよい。
- ② 紀要の編集の手伝い等依頼される場合は、簡単に引き受けるのではなく、どのように対処すべきか図書館として考えておいた方がよい。

3) 研修発表との改訂部分

S. Harnad の論文からのグラフを引用したり、google 検索からヒットすることの説明を追加して、リポジトリ登録のメリットを強調した。

3. リハーサル・プレゼンの概要

- 1) 日 時 : 平成 19 年 10 月 22 日 (月) 10:00~10:15
- 2) 場 所 : 香川大学図書館 3F 会議室
- 3) 発表者 : 岩澤尚子、竹島雅美
- 4) 発表対象: 機関リポジトリ検討委員会委員並びに図書館職員
- 5) 参加人数: 14 名

4. リハーサル・プレゼンへの反響

1) 質疑応答内容

Q: Google 検索で上位にヒットするとはどういうことか。

A: Google に機関リポジトリを検索対象とするように申請を行う予定である。

Q: 香川大学で発行されている紀要で電子化・公表を前提に発行しているものは、自動的に機関リポジトリに登録されるのか。

A: 現在は、CiNii で全文公開する許可を得ているが、それとは別に大学の研究成果物として公開するものであるから、全文への入り口が増えると考えている。将来的には、全文提供が CiNii から各大学の機関リポジトリに移行することも予想される。

Q: Google などの検索結果から原文が見られるようになるのか。また、香川大学発行以外の雑誌については、著者が機関リポジトリ登録を希望し、かつ、著作権の問題がないものが登録されるのか。

A: その通りである。

Q: 教員の前任校などの著作物の登録は可能か。

A: 機関リポジトリは、基本的には所属している機関の著作物を対象にしているが、前任地での著作物を登録対象とするかどうかは、今後方針を決めていくことになる。ただし、著作権が著者自身になくて、前任校の大学・編集委員会等に帰属していれば、著作権許諾処理が必要である。

Q: スライドの Open Access vs. Non-Open Access Citation Impact Ratios のデータが対象としている物理学の雑誌名にはどのようなものがあるのか。

A: 不明なので調査回答する。(→特定の雑誌ではなく ISI 社のデータベースを基に分析した結果である)

Q: 引用される論文は紀要より商業誌が多い。商業誌に投稿した著作をリポジトリに登録することのメリットを強調しないと説得に欠けるのではないか。

A: 機関リポジトリは、商業誌の代替になるものではなく、研究成果にアクセスするきっかけを作るものである。先生方の研究成果の視認性を高める効果があるので、その部分を強調するよう考えたい。

Q: 登録ファイルは PDF に限るのか。

A: 電子ファイルであれば、PDF でなくてもよい。

Q: 教員が何をやるべきかについて、一目でわかるように図解すればより理解しやすいのではないか。

A: その方向で検討する。

Q: 著作権処理は、教員が行うのか。

A: 原則として著作権手続きは著作者に行って頂きたいが、図書館での問い合わせ先・窓口を明確にして、許諾の様式は図書館で用意する。論文投稿時の契約書に著作権の扱いについての情報が記載されている場合があるので、参考にして頂きたい。

2) アンケート結果

アンケートを実施し、14名から回答を得た。結果は以下の通り

	良い	どちらともいえない	悪い(長い)	未回答
説明会全般の満足度	10	4	0	0
発表者の声の大きさ・話し方等	11	3	0	0
説明の内容	9	1	0	4
説明会の長さ	13	0	1	0
	理解できた	ほぼ理解できた	理解できていない	未回答
機関リポジトリについて理解できたか	12	1	0	1
	思う	どちらともいえない	思わない	未回答
リポジトリに自分の研究成果を登録したいと思うか	11	1	1	1

<プレゼンテーション全般について気づいた点>

- ・ 口調が丁寧で、声がよくとおる。落ち着いていてよかった。
- ・ ポイントをつかんだわかりやすい説明だった。
- ・ 図表などを用いて視覚的にわかりやすくしてほしい。
- ・ 手間に対するメリットを説得できればよい。
- ・ 説明で、機関リポジトリと学術情報リポジトリが同一かどうか説明した方がよかった。

<説明内容について気づいた点>

- ・ リポジトリのメリットがわかりづらかった。もっとアピールする必要がある。
- ・ リポジトリ登録までのフローチャートのようなものが示されるとわかりやすいと思う。権利処理についての説明が詳しい方がよい。また、できるだけわずらわしくないという印象で受け取ってもらえるようにするとよい。
- ・ 教員がやる具体的な作業を明確にするべきである。
- ・ 個々への著作権者からどのように同意をとりつけるかという点の説明があった方がよい。

5. その他

1) リハーサル・プレゼン後の改訂部分

- ・ 商業誌等の代替になるものではなく、研究成果の視認性を高める効果があることを口頭で強調する。
- ・ 登録者が何をすべきかをまとめて図解したものを追加した。

2) 今後の予定

- ・ 機関リポジトリ検討委員会やワーキンググループにおいて、運用指針・登録コンテンツについての方針を決める。
- ・ 学内周知に向けて登録方法マニュアルや著作権許諾書等の書式を作成する。
- ・ 香川大学基礎情報データベースシステムとの連携部分の調整を図る。
- ・ 学内説明会については、各キャンパスごとに全教員を対象にした説明会を開催する。